

# Asia Medical Massage Instructors Network

2009年1月AMIN  
モンゴル出張報告書

期間：平成 21年1月 12日～1月14日

## モンゴル出張日程(21年1月)

1月12日(月)	
5:30~	<b>モンゴル盲人協会にて打ち合わせ</b>
対応者:	バヤスガラン会長・ゲレル副会長・ガンゾリグ氏他
内容:	1. 9月以降のモンゴル盲人協会およびAMINの活動について報告 2. 現状を踏まえ実現可能な教育環境整備の可能性 3. セミナー開催について
1月13日(火)	
9:30~	<b>モンゴル盲人協会にて打ち合わせ</b>
参加者:	モンゴル盲人協会 保健省BOLD氏 日本財団千葉氏
内容:	1. 現状と盲人協会の希望の確認 2. 教育環境整備について検討 3. セミナー内容について
14:00~	<b>モンゴル保健省大臣との面会</b>
対応者:	保健省大臣 Sambuu LAMAA 氏他政府関係者4名
内容:	1. AMINの活動内容について 2. モンゴル視覚障害者の現状と教育環境整備の必要性 3. セミナー参加要請
16:30~	<b>モンゴル社会福祉労働大臣との面会</b>
対応者:	社会福祉労働大臣 Tugsjargal GANDHI 氏
内容:	1. モンゴル福祉制度の現状について 2. セミナーの目的説明と参加要請
19:00~	<b>IVNMC モンゴル子供支援国際ボランティアネットワーク井上氏との面会</b>
内容:	1. お互いの活動およびモンゴルについての情報交換
1月14日(水)	
9:00~	<b>国立看護学校</b>
対応者:	校長 Dalkh TSERENDAGVA 氏
内容:	1. AMINの活動内容について 2. モンゴル視覚障害者の現状と教育環境整備の必要性 3. セミナー参加要請
11:00~	<b>JICA日本センターでセミナーについての打ち合わせ</b>
対応者:	業務調整係 白石氏 ガルマー氏 ボロルサイハン氏
13:20~	<b>国立伝統医療大学</b>
対応者:	校長 Sanduijav OLDOKH 氏
内容:	1. セミナーの目的説明と参加要請

## 1月12日（月）

### ○盲人協会との打ち合わせ

時間：18：00～21：00

場所：モンゴル盲人協会

出席）盲人協会：バヤスガラン会長・ゲレル副会長・ガンゾリグ氏（通訳）

AMIN：形井秀一、楠山寛子

モンゴル到着が16時近かったため、18時よりモンゴル盲人協会を訪問し、9月以降のお互いの活動状況の報告等を行った。

①まずAMIN推進委員会としては、今後モンゴルの支援を重点的に行いたいという意向を示し、12月に行ったモンゴル保健省のBOLD氏やワンセンブルウモンゴリア代表の森氏、日本財団千葉氏などと話し合いの場を設けたことを報告した。そしてその話し合いの中で、モンゴルでセミナーを行い、盲人協会が進めたいと思っている事について理解してもらうためにセミナーを行うという案が出たことを伝えた。それについてはモンゴル盲人協会も了承。

②盲人協会の9月以降大きな進展としては、11月から台湾政府の支援で、6か月のトレーニングを終えた生徒向けにさらに6か月のコースを指導者育成目的に始めていること。現在20名の生徒がおり、そのうち15名はウランバートル以外の地方から参加している。

③また、学校建設について見積額が思った以上に高額だったことで、現状では実現性が薄いだろうという認識を日本側もモンゴル側も持っていることを確認し合った上で、どのような形であれば現状より良い、医学的な教育を受ける場を作ることが出来るか話し合った。解決すべき問題は大きく3つあり、制度の問題、器（建物）の問題、運営上の問題（カリキュラム、教員、運営費など）が考えられる。

1）モンゴルの教育制度として、大きく4年制の大学、2年～3年の短期大学（カレッジ）と特に年数の規定のない専門学校と大きく3つのタイプがあり、現在のトレーニングセンターは専門学校という位置づけになる。その中でモンゴル盲人協会は、看護師やPTと同等の短期大学（カレッジ）程度の教育を行うことの出来る教育環境を望んでいるため、あくまでそれを目指すということははっきり希望している。そのためには現在モンゴルにない、マッサージについての教育制度を設定しなくてはならない。

2）次に器（建物）の問題についてだが、新たにゼロから建設するというのがなかなか難しい現状の中、既存の建物を活用するとしたらどのような可能性が考えられるか検討した。モンゴルには国の運営する障害者支援センターという、年間約1600万ドルの予算で運営している施設があり、ここでは様々な障害を持つ人たちのために講習を開いている。ただし、盲人協会としては、この講習の中の一科目としてマッサージ教育をすることには反対で、結局現在行っているトレ

ニングセンター内での教育と変わらないものになってしまうだろうと考えている。また、例えば伝統医療大学の付属としてマッサージ科のようなものを作ることについてはどう思うかという質問に対しては、今一部の理解のある先生方がいるとして、仮にそのようなことが実現したとしても、数年後その先生がいなくなるなどしてうまくいかなかった後には、結局建物も、投資した設備なども視覚障害者の教育のために使われるという確約がないため、長い目で見ると視覚障害者のためにはならないという気がするので、あまり積極的ではない。それであれば、例えばベストマッサージの建物を増築するなど、小規模でも視覚障害者のための教育施設であるほうが良いと考えている、との事。

3) 運営の問題については、視覚障害者のみでなく、晴眼者にも門戸を開き、請願者からの授業料で運営するということも考えられるが、やはり政府からの支援は必須であり、今後働きかける必要がある。

その後夕食を交えながらの話し合いとなった。

## 1月13日(火)

### ○盲人協会との打ち合わせ

時間：9:30~1:00

場所：モンゴル盲人協会

出席) 盲人協会：バヤスガラン会長・ゲレル副会長・ガンゾリグ氏(通訳) 他

保健省：BOLD氏

日本財団：千葉氏他

AMIN：形井秀一、楠山寛子

議題) 1. マッサージ教育設備の設置

2. モンゴルマッサージセミナーについて



### 1. マッサージ教育環境の整備について

まずバヤスガラン会長より、なぜモンゴルの視覚障害者にこのような学校が必要なのかという説明から始まった。

バヤス) モンゴルの人口260万人の中に8000人の視覚障害者がいる。そのうち職についているのは1%のみで、99%が無職、90%が生活苦である。これは視覚障害がある人が可能な仕事そのものが少ないということが原因であると考えている。現在仕事をしている視覚障害者は約100名で、そのうち60名程が盲人工場で働いており、その他は自分で商売を営む、学校の先生、音楽家、マッサージなどの職についている。他の先進国を例とすると、マッサージが視覚障害者に向いている職業であると考えられるので、モンゴルでもぜひ進めていきたい。2005年から職業訓練センターで6か月間のマッサージ講習を始め、現在5回の卒業生、計56名を卒業させた。また、

この卒業生達が働くことが出来るように、政府の援助の下4店舗のマッサージセンターを設立させている。そして、次のステップとして、もっと専門的で医療的な知識が必要だと判断した。学校にもいろいろなレベルがあるが、何もないところから作り上げるよりは、日本で300年の歴史があるマッサージ教育を基として現在日本で視覚障害者が実際に学んでいる内容に加え、国内の医療現場でも受け入れられるようにモンゴル伝統医療も学ぶような3年程度の短大（カレッジ）のようなものを目指したいと思っている。モンゴルには医療関係の大学がいくつかあるが、視覚障害者のための医療学校を作ることに 대해서는政府も応援してくれるだろうと考えている。

千葉) 視覚障害者の基礎教育レベルはどの程度か？

バヤス) 国に一つの盲学校があり現在生徒数80人。弱視は普通校へ行く。

千葉) 基礎教育の割合は？

バヤス) 数字は分からない。ウランバートル市内でも交通手段の問題など様々な問題で学校に行くことが出来ない。義務教育は9年間（中学まで）。

千葉) 56名のマッサージ訓練センター卒業生の学歴は？

バヤス) 1割が大卒。ほとんどが中学校もしくは高校卒業している。

千葉) 伝統医療大学の一部としてマッサージコースを行うという考えはないか？

バヤス) 今まで伝統医療大学には視覚障害者が入ることが出来ないか相談してきたが、教材や指導者がいないということでまだ早いと言われた。どこかの学校に付属を作るのではなく、視覚障害者を中心とした学校にしたい。

千葉) 教材や指導者の問題が解決すれば、可能か？

バヤス) 医師となるとレベルも高く、なかなか入るのが難しいという問題はある。

BOLD) 医学関係では現在5つの学校があり、最も小さい学校で200名、大きくて1000名の学生がいる。モンゴルでは人口1万：27名の割合で医師がおり（中国では1万：10名）、看護師においては1万：33名（中国では1万：10名）の割合で存在するため、医療関係者の数が人口に対してただでさえ多いと感じている。盲人協会の構想については応援しているし、基礎は作らなくてはならないと思っている。まずモンゴルで仕事をするのを考えると日本あん摩とモンゴル伝統医療を合わせたカリキュラムが良いと思う。国立伝統医療大学の付属というのは大変だと思うので、独立した学校もしくは短大（カレッジ）の中で行うというのがいいと思う。現実的に考えると全く新しい施設を作るのは費用の面でも難しいとなると、カレッジの中の一学部として入るのが良い気がする。

千葉) 具体的に協力を要請できそうな学校はあるか？

BOLD) 国立の看護学校が良いと思う。そこは、看護師、PT、レントゲン技師、薬剤師、歯科助手等の医学系の学部が集まっており、そのなかでマッサージの科を作ることが出来ればよい気がする。

形井) 日本では西洋医学以外で国民が受けている医療として、サプリメントが4

0%以上、それに次いで10%以上がマッサージを受けている。今回この10%の分野をモンゴルで作ろうということだと理解している。

千葉)財団として考えられる支援としては、既存の学校と協力して視覚障害者にも対応できる環境やカリキュラムを作るとのこと。

BOLD) マッサージだけを学ぶ場を作るのは良いと思う。現在3年間もかけてマッサージだけを学ぶ学校はないので、政府の協力も得やすいと思う。

バヤス) 既存の学校と協力して行うことに関しては、試みてみてうまく行けばよいが、あまりうまくいかなかったという時のことを考え、権利等についての取り決め等をしっかり行いたい。

## 2. セミナーについて

期日：3月31日(火)～4月2日(木)

場所：モンゴル日本センター

### ○目的

モンゴルのマッサージ資格制度および教育環境の整備のために、モンゴルと日本の視覚障害者に対する理解を深めることを目的とする

### ○参加者の選定

まずは盲人協会およびBOLD氏で招待リストを作成し、その上で検討。プライオリティをはっきりさせることが大切。

－保健省

－社会福祉労働省

－教育省

－伝統医療および医療関係者 (BOLD氏に一任)

### ○内容

#### ①講演

－伝統医療の在り方・問題点 (BOLD)

－医療の現状とマッサージ教育の必要性 (BOLD)

－モンゴル視覚障害者の現状と現在盲人協会が目指していること (Bayasgaran)

－社会福祉労働省として視覚障害者の職業支援に対する今後の政策

－日本の視覚障害者の現状と歴史

－日本のマッサージ教育と他のアジア諸国の現状

#### ②実技

－視覚障害者によるあん摩体験

－モンゴル伝統医療マッサージ体験 (ビデオ上映)

#### ③戦略会議 (3日目)

政府関係者、医療関係者、盲人協会および日本側より代表者で集まり、今後の可能性を議論する。

### ○医療大臣面会

時間：14：00～14:30

場所：保健省

対応) 保健省：大臣 Sambuu LAMAA 氏 他4名

訪問) 盲人協会：バヤスガラン会長・ガンゾリグ氏（通訳）他

日本財団：千葉氏他

AMIN：形井秀一、楠山寛子

午後2時より、モンゴル保健省大臣と面会した。まず形井教授より、簡単に大学の説明とAMINの活動についての紹介があり、視覚障害を持つ人々が職業自立をするために、日本の歴史や経験を生かしていきたいという旨の話がされた。また、それらを理解してもらうために3月から4月にかけてセミナーを行うのでぜひ来てほしいと伝えられた。次に盲人協会バヤスガ



向かって左 保健大臣

ラン会長より、モンゴルの視覚障害者の現状、特に就業者の少なさについての現状と、それを改善するために現在マッサージの教育を行っているが、現状を大きく変化させるためには、さらに専門的な医療マッサージを学ぶことの出来る教育環境が必要なことを訴えた。日本財団千葉氏からは、日本財団の紹介と、医療マッサージによる視覚障害者の職業自立に関して政府の理解を求めた。

大臣であるLAMAA氏は、1996年より国会議員となったが、それ以前は教育者として学校の校長をしていた。今回保健省の大臣となる以前は社会福祉の担当で、障害者福祉法については9年間関わってきており、盲人協会の立場についてもよく理解しているという。LAMAA氏からは、障害者に対する教育制度が整っていないことに理解を示し、障害によってそれぞれ才能があり、それを生かすことが大事だと思う。視覚障害者は全国に9000人しかいないということを考えると、独立した学校を作るのではなく、伝統医療大学など既存の大学の一部として教育をするかどうか。指導者は、日本へモンゴルから留学生を派遣し、その人たちが教師として教えるのが良いと思う。まずマッサージ師の人数を増やした後に、視覚障害者のマッサージ師を保護するための法律を作ることも考えられる。すぐれたマッサージ師が出てくれば社会の意識を変えることも出来るだろうし、視覚障害者に対する評価も変わるだろう、と述べた。また、マッサージセミナーに関しては、制度を作るためにとても重要なセミナーになるだろう。こちらから講義を行うこともできるし、資料をよく見て、セミナーに参加したいとの返答をもらった。

## ○社会福祉労働大臣面会

時間：16：30～17:00

場所：社会福祉労働省

対応) 大臣 Tugsjargal GANDHI 氏  
訪問) 盲人協会：バヤスガラン会長・ガンゾリグ氏（通訳）他

日本財団：千葉氏他

AMIN：形井秀一、楠山寛子

午後4時半より、社会福祉労働大臣と面会した。世界的な経済危機に関し、モンゴル政府としても対応に追われている様子であったため、大臣の話の聞くということが中心となった面談となった。

ただし、盲人協会からの日頃の働きかけのせいか、盲人協会が目指していることに関しては理解しているようで、我々の活動についても既に理解した上での面会だったため、こちらからはセミナー開催の際にはぜひ参加していただきたいということと、医療マッサージの免許制度を作ることで、就業機会の保障を少しでも進めていきたいとの希望が伝えられた。

大臣は、経済危機で障害者を含め多くの人々が職を失う可能性がある。年金以外で少しでも働くことでお金を稼ぐことが大事。視覚障害は障害の中でも重い。いろいろな国に援助をお願いしているが、ヨーロッパからの援助は減っている。そこで、国内でどのように職を作るかということが大事だが、マッサージというのは軸となっていこう。継続的にマッサージ師を育てる制度を作るのが大切だと思っている。一番最近の調査でウランバートル市内には5500人の重度の視覚障害者がいることがわかった。現在法律で従業員50名に対し3名の障害者を雇用するように定めているが、うまく機能していないため、1企業に1名に変更したいと考えている。セミナーに関しては、社会福祉労働省がどのようにセミナーに参加するのが良いか知らせてほしい、省の役割としては医療マッサージ教育後の職業という問題で協力していきたい、と述べた。



右 社会福祉労働大臣

## ○国立看護学校

時間：9：00～10：30

対応) 校長 Dalkh Tserendagva 氏

訪問) 盲人協会：バヤスガラン会長・ガンゾリグ氏（通訳）他

日本財団：千葉氏他

AMIN：形井秀一、楠山寛子

国立看護学校は1929年に設立され今年で80周年になる。教員は120名、6つの学部があり、看護師、薬剤師、歯科衛生師、レントゲン技師、理学療法士および実験助手（医師の補助作業をする）を育成、これまで25000名の卒業生を排出している。校長自身は、昨年6月より校長となったが、それ以前は伝統医療大学の





校長をしており、医療省の BOLD 氏とは伝統医療大学の同級生ということである。  
校長) 視覚障害者にとって学ぶ機会が必要なことは理解できる。新たな学部を作るなどについては政府関係者にまずは働きかけてほしい。伝統医療の教育も、1 教室で半年間のコースを行ったのが始まりで、現在は 6 年制の大学になっている。マッサージについてもまずは半年～10 か月と順を踏み、その後 2 年にするか 3 年にするか決めていくのが良いのではないかと思う。視覚障害者だけでなく晴眼者にも門戸を開きたい。

千葉) 日本財団では途上国の障害者など社会的弱者の支援や海の安全に関する事業を行っている。モンゴルでは伝統医療に関するものの他に、視覚障害者の就労支援を特に医療マッサージを中心として行っていこうと考えている。これは、物を与えるということではなく、資格・教育制度を整備するために必要な支援を中心として行いたい。それには盲人協会や医療関係の大学、政府の協力が必要と考え、3 月にセミナーを開催し、関係者の理解を深めたいと考えている。

校長) これまでスイスのジュネーブ大学やソウル大学、群馬大学など他国と協力して教育した経験はある。ここで新たな分野を始めるためには本学に必要なのかアピールすることが大切だと思う。関係者の理解が得られれば、制度を新たに作るか、もしくは制度に合わせるかでどのような教育になるのか決まってくるだろう。セミナーでは私も伝統医療について講演することも出来るのでいつでも言ってほしい。

形井) どのような教育形態にするかはモンゴルの教育制度に合わせるのが良いと思う。

校長) 日本では何年間教育し、卒業後はどのような職に就くのか？

形井) 日本の法律に従って高卒 3 年以上学び国家資格を受ける。現在全国に晴眼者向けで 80 の専門学校と 65 の盲学校、4 年生の大学が 6 つある。就職先としては、西洋医学の病院（主に整形外科）、鍼灸院、開業、また企業の中で健康管理を行うヘルスキーパーも現在 300 人以上いる。

校長) 新たな部門を作るためには①社会的必要性②卒後の職業と給与レベルの設定③教育カリキュラム・システム開発の 3 つが大事。

この後、盲人協会バヤスガラン会長とガンゾリグ氏より、現在盲人協会が現在行っているマッサージ教育の半年コースは医療とまではいかないもので、もう少し専門的な医療の知識のあるマッサージ師を育てたいと考えていることが伝えられた。既に段階を踏んでいることと、他国を例として、次のステップに進みたいとの旨が伝えられ、そのようなステップを既に踏んでいるというのであれば、短大を目指すのが良いだろうと、校長も理解を示した。

○ J I C A モンゴル日本センター

時間：11：00～12：00

対応）業務調整係 白石氏、ガルマー氏、ボロルサイハン氏

訪問）盲人協会：バヤスガラン会長・ガンゾリグ氏（通訳）他

日本財団：千葉氏他

A M I N：形井秀一、楠山寛子

訪問目的：セミナー開催会場としての打ち合わせ



○ 国立伝統医療大学

時間：12：30～13：00

対応）校長 Sanduijav OLDOKH 氏

訪問）盲人協会：バヤスガラン会長・ガンゾリグ氏他

日本財団：千葉氏他

A M I N：形井秀一、楠山寛子

前回9月に続き今回が2度目の面会であるため、9月以降の大きな動きとして、3月にセミナーを開催することを伝え、参加を要請、伝統医療についての講演も可能との返答をもらった。また、校長からは視覚障害者が医療について学ぶために必要なことなどについて、具体的に教えてほしいとの要望もされた。

以上